

与那原大綱曳は、琉球王国の尚永王代（1573年～1588年）に始まったといわれる伝統ある行事です。支度を乗せた大綱が街を練り歩く様は、竜神のうねりを思わせ勇壮。東西に引き合いながらの攻防は見る人を魅了し、曳く人の心を熱くさせます。写真は広島県出身の写真家坂本万七が、昭和14年に故・柳宗悦率いる沖縄調査団に同行した時に撮影されました。：与那原町教育委員会所蔵



沖縄県文化協会 会長
仲田 美加子

沖縄文化の魅力は、その多彩さにあります。古くを受け継ぎ、新しきを拒まず、継承と創造を積み重ねてきたことで、今日の豊かな文化環境が形成されてきました。その先人たちの英知に学びつつ、時勢に合った方法を模索していかなければなりません。

各市町村文化協会が、独自の歴史・文化に誇りを持ち特色ある事業をエネルギッシュに展開され、文化の薫り高い地域づくりに取り組んでおられることに対し心から敬意を表します。

令和元年12月に伊江村文化協会が設立されました。村長・村議会議長・教育長が前面に立ち村民上げての設立総会に立ち合い感銘を受けました。これで北部連合文化協会においては、さらに弾みがつくものと思われます。

文化の諸活動は、地道な伝統継承の努力と新たな創造挑戦の努力の中で熟成されていくものと思われます。文化協会という組織そのものも先達からの継承と今後を展望して挑戦していく視点・感性が求められてきている事を常に感じております。

ところで、2021年は5年に一度の世界のウチナーンチュ大会。2022年は本土復帰50周年に合わせて国民文化祭が本県開催に決まっております。県を挙げての大きなイベントに力を合わせて応えてまいりましょう。

今後とも、各市町村文化協会の特性を尊重しながら連合体としての役割を果たして参りたいと思ひます。



Contents

巻頭の言葉 沖縄県文化協会 会長 仲田 美加子	
会員情報	1
連合文化協会	10
自主事業 第25回しまくとぅば語やびら大会	11
自主事業 沖縄県文化協会賞	12
自主事業 第3回 U-18島唄者コンテスト	13
受託事業 地域文化継承・発信支援事業	14
受託事業 しまくとぅば普及センター運営事業	15

国頭村文化協会

会長 大城 久昭 / 事務局長 宮里 光

国頭村文化協会は平成16年に設立され、現在では37団体が所属し、やんばる文化の振興・発展を目的に積極的に活動しています。

毎年開催している「国頭村文化協会舞台発表会」は、令和元年度で第14回を迎え、11月16日国頭村立総合体育館において、「国頭村文化・福祉まつり」と同日開催されました。文化の部では、村文化協会から紅型や生け花、水墨画など多数の作品が展示されました。

舞台発表会では、琉球古典音楽や子ども三線、琉球舞踊に日本舞踊など多彩な演目を披露し、来場者に楽しんでいただきました。



第14回国頭村文化協会舞台発表会「子ども三線」

今帰仁村文化協会

会長 仲本 義朗 / 事務局長 嘉陽 健

今帰仁村文化協会では、令和元年8月24日(土)・25日(日)2日間文化祭の展示が村民体育館でありました。会員の書道・華道・写真等の作品と村内の子供達の絵画などが合わせて展示され、多くの村民が足を運びました。又、8月24日には今帰仁村祭りの会場の野外ステージで村文化協会の舞台部門が開催されました。今帰仁村文化協会の特徴の一つである伝統芸能保存部からは、村の無形民俗文化財にも指定されている、仲尾次区の「亀の甲」の演舞を始め、琉舞や古典音楽など多彩なステージが繰り広げられ、観客の皆さんを楽しませました。

村の無形民俗文化財にも指定されている、仲尾次区の「亀の甲」



2日間の展示にたくさんの来場者がありました

本部町文化協会

会長 饒平名 知政

本部町文化協会では、会員の皆さんが参加する総合文化祭以外にも、たくさんの魅力的な事業を行っています。10月には本部町文化協会・多良間村文化協会・本部町観光協会などで実行委員会を組織して、本部のカルスト舞台ジマジョウムイ公園内の特設ステージで、月下のライブを行っています。島唄やしまくとぅばのお話、多良間の組踊のワンシーンなど、盛りだくさんの内容で、毎年楽しみに通うファンが増えています。また、本部町教育委員会と児童文化部会が中心になって開催している「琉球歌留多大会」は、小学生から大人まで40名以上が参加して、12月14日に開かれ、会場には「とぅた〜ん」「あたと〜ん」の音が響いて、歌留多を楽しみながら、しまくとぅばの普及にもつながっています。



名護市文化協会

会長 大城 松健 / 事務局長 岸元 ちさと

平成から令和へ。慌ただしい一年があっという間に過ぎようとしている。昨年10月末の首里城焼失は記憶に新しいが、悪いことばかりではなく、沖縄県民が心をひとつにして復興をめざすという前向きな気持ちを持ち続けられたらと思う。

今年は名護市市制50周年節目の年に、文化祭が30回を迎えた。展示・舞台にゲストを招くも、旧1月16日と重なり観客動員に影響がでた。しかし、会員の成果披露の内容は充実したものとなった。

また、3月8日に予定していた「むんなれー文化講演② 篆刻(てんこく)小宇宙の藝術」が新型コロナウイルス騒動で延期となった。古典音楽部会「さんしんの日」など、中止となるイベントも多く、準備を進めてきた皆さんには、残念な結果となった。一日も早い収束を願うばかりだ。そして、新たな気持ちで新年度を迎えたい。



宜野座村文化協会

会長 津嘉山 朝政 / 事務局長 金武 哲也

宜野座村文化協会は「真の心の豊かさを求める時代に、村民一人ひとりが主人公となり、文化振興による潤いある心豊かな村興しを推進する」という理念のもと平成8年に設立され、平成30年度に20周年を迎えました。平成31年1月18日に挙行した20周年記念式典では、これまでの活動の足跡を共に偲び、地域づくりに貢献する今後の活動に思いを馳せ、互いに称えあい、励まし合うセレモニーになったと感じております。

設立当初から継続して開催している文化祭は、昨年で第21回を数え、各部会の活動を広く知ってもらう催し物となっております。また、村まつりや姉妹町村との交流、村慰霊祭へも積極的に協力しています。

新しい取り組みとして、去る1月10日から19日までの10日間、村立博物館で書道部会の功労者による「書道三人展」を開催しました。多くの方に来場いただき、全会員の良い刺激になったと同時に文化協会活動の活性化ともなりました。



金武町文化協会

会長 宜野座 清徳 / 事務局 小橋川 晃

当協会は毎年11月第2金曜日から3日間文化祭を開催しています。昨年で12回を迎えました。展示部門は金曜日～3日間、土曜日は子ども芸能発表会「司会から進行すべて子どもたちで進めます」日曜日は大人の舞台発表。昨年設立30周年を迎えました。古典・盆栽・ラン・日本文化・絵画・女声コーラス・大正琴・文芸・紅型・写真・現代音楽・囲碁・八重山芸能の13部会総勢240余名。文化祭以外には平成元年7月、ハワイ・アルゼンチン沖縄会館建設基金チャリティコンサート、平成29年3月ハワイ沖縄プラザ建設募金チャリティ公演、令和2年3月には、首里城再建に願いを込めて「ひやみかちコンサート」を企画しています。施設への慰問、三線の日等を通じ、地域文化の継承に努める。



恩納村文化協会

会長 池宮城 秀光 / 事務局長 長浜 健

当文化協会は、昨年5月に役員改選があり、会長「池宮城秀光」副会長「亀谷梢・西君子」の新体制となりました。

年間事業といたしましては、7月下旬に「うんなまつり」と同時開催の「しまくとぅば語やびら大会」、11月開催の恩納村文化祭「舞台発表部門」、「展示部門」を主要事業としております。

その中から、「しまくとぅば語やびら大会」では、昨年中学生の村代表者が北部地区大会を突破し県大会に出場することができ、すばらしい発表で好評をいただきました。

現在、当文化協会の部会は琉球古典音楽、琉球舞踊、太鼓、合唱、大正琴、日本舞踊、文芸、島くとぅば、書道、陶芸、写真、美術、華道の13部会となっております。過去に比べると会員減少とともに少なくなっているのが現状です。

今後は、多くの方々へ加入を呼びかけていくことと、新しい部会を立ち上げて当文化協会の活性に努めたいと思っております。



うるま市文化協会

会長 山城 正俊 / 事務局長 高原 景一

うるま市文化協会は、4市町合併後創立15年の節目の年を迎え、総合文化祭を始め諸々の行事に積極的に取り組んでまいりました。

総合文化祭舞台部門では、2日間に渡る三回公演で琉球古典音楽や琉球舞踊、琉球民謡、合唱、大正琴、フラダンス等の演目で大いに盛り上がりました。また、展示部門では、書道部を始め美術部・華道部・陶芸部・茶道部・チャーン部や、特色ある体験コーナーで来場のお客様を引きつけ魅了しました。

第4回新春芸術祭は、2月23日に石川会館で実施しました。新型コロナウイルスが国内で感染拡大する中で中止も検討しましたが、石川地域会員の特色ある地域芸能の団結した取り組みや、お客様の地域芸能に対する期待も大きく、マスクやアルコール消毒などの準備を万全に整え、不安の中でありましたが無事終了する事が出来ました。



沖縄市文化協会

会長 立津 文堂 / 事務局長 山内 唐仙

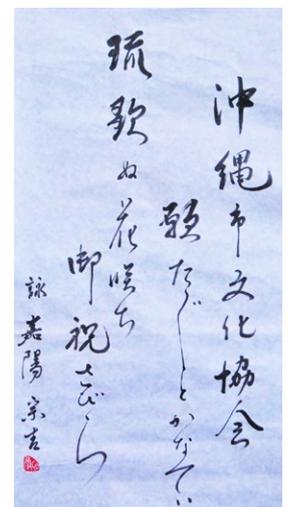
2020年度は創立65年目の節目を迎え、会員数・賛助会員数・部の数も増えています。元気のある部をご紹介します。

展示部門に琉歌部(寿の会)が12名の会員でスタートしました。展示会場での琉歌の発表や参観者に詠んで頂きました。はじめて琉歌を詠んだ方もいたとか。

舞台部門に童謡部が29名で新設されました。市文化センター芸能館で月2回の稽古に励み、文化祭で多くの市民に初舞台を披露しましたが、新型コロナウイルス感染防止の為やむなく中止になりました。今後の活動として学校公演を計画中とか。

歌謡部が昨年から勢いがあり50名から62名に増え、さらに今年度は歌謡愛好生きる会が25名加入し、現在87名の会員になりました。2020年度の歌謡部舞台発表は3日間にまたがっての開催です。

低迷していた写真部ですが、21名から44名に増加しました。これは市内の「ハイサイネット」グループに加入していただきました。展示会場では写真コンテストを行うなど、元気のある部となっています。市民のための文化・芸術活動の拠点を目指していきます。



読谷村文化協会

会長 仲里 義光 / 事務局長 小波津 直也

当文化協会は、郷土伝統芸能の継承をととして青少年の健全育成を図ることを目的に、読谷村教育委員会と共催し、毎年「子ども芸能祭」を開催しております。多くの子ども達が出演し、歌・三線、琉球舞踊、空手、フラダンス等バラエティーに富んだ舞台発表となっております。

今年度より作品展示部門を新たに加え、去年12月14日に『子ども文化祭』として開催しました。

この『子ども文化祭』の大きな特徴は、出演者だけでなくアナウンスも全て児童が担当しているという点です。一生懸命頑張る子供達の姿に、来場されたお客様からは惜しみない拍手が送られました。

又、三線や箏・太鼓を演奏する子ども達は、毎週土曜日村文化センターで開かれている「赤犬子 子ども三線・箏・太鼓クラブ」の生徒達で、地域の伝統芸能の普及・継承に努めています。

これからも子ども達の育成に力を入れていきます。



嘉手納町文化協会

会長 山内 昌吉 / 事務局長 比嘉 裕美子

嘉手納町文化協会は、28専門部会、約300名の会員が、伝統芸能や地域文化の発展と振興を目的に、日々精進を重ねながら、様々な地域行事や町の事業に参加し、地域貢献活動にも力を入れています。

去った1月31日から2月2日まで、第28回嘉手納町文化祭が、かねて文化センターと嘉手納町役場エントランスホールにて開催されました。31日のオープニングセレモニーより展示部門が開始、多くの来場者が絵画・書道の力作を熱心に鑑賞し、また、茶道部(表千家・裏千家)の呈茶のおもてなしに心なやましておりました。2日の舞台部門では、大正琴の幕開けから、民謡部、日舞、合唱など多くの会員の日頃の活動の成果に、大喝采に包まれた舞台でした。今回は、会場にて「首里城再建募金活動」を行い、収益の一部と合わせて寄付する事が出来ました。



北谷町文化協会

会長 桃原 雅子 / 事務局長 當眞 杏菜

当文化協会は、昨年5月に役員改正があり、会長「桃原雅子」副会長「西山庸二・喜友名祥子」事務局長「當眞杏菜」の新体制となりました。

部会も古典芸能部・民踊部等の舞台部門が16部門の四百九名、美術・盆栽・茶道等の展示部門が七部門の135名、合計544名の部員数となっております。

毎年8月に行われております「しまくとぅばオンステージ」は北谷町民だけでなく町内外の方にも大変喜ばれ、今年も第9回目の舞台を8月23日(日) ちゃたんニライセンターカナイホールにて予定しております。

又、古典芸能部は例年単独で発表会を行っており、今年度は令和3年2月に「こども芸能祭」を予定しております。

令和2年度の総合文化祭は今年から舞台発表を前期と後期の2回開催致します。前期の発表を6月に後期の発表を11月に行う予定です。総合展示は12月を予定しております。



北中城村文化協会

会長 喜屋武 馨 / 事務局長 大屋 みゆき

北中城村文化協会は、今年2月で26周年を迎えました。主催事業には文化祭「展示・舞台」、しまくとぅば語やびら大会、合同祝賀・激励会があります。その他、村主催のイベントなど、会員の活動の場が多く、最近ではライカムが出来た事により関連のイベントにも出演依頼が増えてきました。また、各部独自のイベントも継続的に行われており、各部事業費の予算増という現状に嬉しい悲鳴をあげています。

多くの市町村文化協会が会員数の減少という問題を抱えておりますが、当会では今のところ大きな減少はないものの、現会員の高齢化に伴い、近い将来会員数の減少は避けられないのではと懸念しております。若い会員を増やすには、新しい部会を増やすことも念頭に考えていかなくては・・・と。

ただ、北中城村は女性長寿日本一という素晴らしい実績がありますので、先輩方にはこれまで通り後進の指導や勧誘にも一役買って頂きたいと切に願っております。

会員研修・国立劇場おきなわ



中城村文化協会

会長 仲松 正敏 / 事務局長 稲嶺 盛昌

中城村文化協会は平成4年に設立され、現在3年越しに行われる村文化祭りや護佐丸祭り、産業祭り、毎年冬至の日に合わせて、中城村・北中城村合同「わかてだを見る集い」にも積極的に参加出演し、日頃の練習の成果を発表する舞台を作り上げています。

昨年は、本島南部に点在する歌碑巡りを行い、村文化協会の各部の部長や会員22名が参加しました。

歌碑を読むと、その背景が心に浮かび、なかでも30文字の島言葉に思いを託した琉歌は沖縄独自の文化で格別の味わいを感じました。祖先が三味線の調べにのせて口ずさんだ琉歌に触れ、会員一同これからの協会活動に新たな気持ちで進む歌碑巡りとなったと思います。



2019年7月27日の
「南部歌碑巡り」



わかてだを見る集い

宜野湾市文化協会

会長 新城 康弘 / 事務局長 上江洲 慶子

芸術文化の秋に、第40回 節目の文化祭が、令和元年11月9日(土)～10日(日)2日間の日程で 展示部門「作品展」舞台部門同時開催「古典部・バラエティーステージ」各部会の取り組みで会場を盛り上げ成功裏に終える。

40回記念公演として、組踊「銘子」を上演しました。宜野湾市の、真志喜には「森の川」に羽衣の伝説が伝わっています。若い方々への関心を深めるために、字幕で「題詩、歌詞」を表示して組踊の魅力を楽しめるようにしたところ、観客の反応がとてもよく好評でありました。

また、首里城復興支援のために募金を募り、20万余寄付することが出来ました。次年度の文化祭も首里城再建に向けた追加支援のためのチャリティーとして計画。「1日も早い首里城の復興」を心よりお祈りしております。」



40回記念公演 組踊「銘子」

浦添市文化協会

会長 玉城 千枝 / 事務局長 砂川 盛榮

浦添市文化協会では、昨年11月に第38回文化祭を開催しました。浦添市でだこホールで華道部が活けた迎え花に祝されて、市長・議長・教育長はじめ多くの来賓を迎えての開会式が盛大に行われました。玉城千枝会長はあいさつで「浦添の地から新鮮なアイデアや、古のものから新しい形へと、各部会のたのしくて素晴らしい作品に出会えること、一年間修練した成果の発表」と意義を述べました。

大ホールでは舞台発表、ホワイエでは文芸部と盆栽部の展示、市民交流室では華道部の展示と茶道部の呈茶席が行われ、隣接する市立美術館では美術・写真・書道部会の展示、琉球の茶道ぶくぶく茶の呈茶席が行われました。

当協会文化祭の特徴の一つは、組踊部会による組踊です。毎年演目を変えての演技で観客に感動を与えています。

今年は、市内にあるJAIC沖縄(国際センター)の海外からの研修生十数名が来場し、書道などの実習を楽しみ、舞台発表の琉球舞踊など琉球伝統芸能文化のすばらしさを堪能したようでした。



西原町文化協会

会長 新里 勝弘 / 事務局長 山里 勝也

西原町文化協会は「継承・創造・躍進」をテーマに第15回合同展示会と第2回子ども文化祭を、2月8日・9日の2日間、さわふじ未来ホールで開催しました。

合同展示会は、写真・美術工芸(絵画・革工芸)書道・茶道・華道の各部会の発表展示があり、また、水彩画体験コーナーを設け、参加者は、山田武副会長の指導で世界に一つだけの画を描きました。

子ども文化祭の展示の部は、町内の書道教室で学ぶ子どもの作品150点と、数点の絵画・革工芸と共に中ホールにて展示しました。舞台の部は、これまで日々励んできた、地域の伝統芸能や民俗芸能(器楽合奏・琉舞・棒術・獅子舞)や空手・大正琴・詩吟・しまくとぅば・ハワイアン・琉球舞踊・民謡など多彩に披露しました。

前回の子ども文化祭は、「素晴らしいかった」と大好評で、今回からは2年に一度の継続開催となります。



那覇市文化協会

会長 崎山 律子 / 事務局長 野原 巴

令和元年、当文化協会会員から昨年に引き続き、人間国宝が誕生しました。その他、文化庁長官賞、県功労者表彰、県文化功労者表彰、那覇市政功労者表彰、重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)等、15名1団体が各種功労者の表彰を受け、喜ばしい年となりました。

会員の総力で取り組む「あけもどろ総合文化祭」は第28回目を迎え、パレット市民劇場、那覇市民ギャラリー等を会場に、展示部門・舞台部門等、26部会の発表が10月8日～2月2日までの間に賑やかに開催され、約7000名の観客動員がありました。

特記すべきことは首里城の火災を受け、11月以降の「あけもどろ総合文化祭」の会場において、首里城再建に向けての募金活動を行ったことです。募金は那覇市へ贈呈しました。併せて、「みんなで考える首里城」をテーマに市民講座を開催しました。首里城関連講座は次年度も開催を企画していきます。



豊見城市文化協会

会長 座安 獲移子 / 事務局長 金城 信三郎

豊見城市文化協会は、平成5年3月に設立され、以来、文化祭を始め(27回)、慰問公演、会員の研修事業、また、平成17年度から「しまくとぅば子ども教室」を開設して15回を数え毎年12、3名が受講しております。

昨今の事業や取り組みとして、若手舞踊家や地謡を育成するため舞踊、古典音楽部合同研修会の開催、また、将来を担う子ども達の活躍を期待し文化祭の舞台発表で歌三線、箏、太鼓など斉唱の新たな場を設け好評を得ており、継続して取り組んで行く考えであります。新年度から子ども達に歌三線や箏を体験させ親しんでもらうため教室等を開設すべく検討しています。

高齢化に伴う会員の減少傾向が続く中、後継者の育成は重要な課題であり、同時に会活動の健全化を図るため会員の加入促進はもとより、今年度から賛助会員の加入促進に取り組んでいます。



文化祭で演奏する吹奏楽部



子ども達の歌三線斉唱

八重瀬町文化協会

会長 神谷 清一 / 事務局長 比嘉 修

ハイサイグスーヨー チュウガナビラ。チャーガンジュー アッチミセービガヤー。

さて、八重瀬町文化協会の年間事業として、7月には「島くとうば大会」9月には「子ども芸能祭」11月には「汗水節大会」12月には「琉球芸能祭」「美術・工芸・盆栽展」等を開催する事ができました。

これも、会員の協力、地域や皆様の支えで沢山の事業を行う事ができていて、とても感謝しています。これからも当会活性に努めていきたいと思えます。

昨年は私たちが衝撃を受けた、首里城の焼失。一刻も早く復興できるよう祈願いたします。これからの復興に向けてまだまだ多くの支援が必要だとは思いますが、当会はこれからも応援いたします。



南城市文化協会

会長 與那嶺 紘也 / 事務局長 知念 良光

主催事業は、子ども芸能公演、第14回芸能公演～東四間切するてい遊ば～、第13回南城市総合文化展を開催。子ども芸能では三線、琉舞、民謡、箏曲、ハワイアンフラ、太鼓などを披露。可愛らしい姿に観客からはあたたかい声援と拍手がありました。また、小学校の級長選挙に挑む様子を披露する島田泰健さん(小2)、ラップ音楽調にアレンジ発表した花城さくらさん(小6)も島くとうばで舞台を盛り上げました。総合文化展は、会場を南城市役所の新庁舎にて初開催。新しい会場に多くの市民の来場がありました。部会活動では、琉球民謡部「第8回 南城市かいされ一大会」「チャリティー民謡ショー」、学術文化部「歌碑めぐり」、しまくとぅば部「文化講演会(島言葉励行願う解放)」、八重山芸能部会「八重山芸能の夕べ」、芸能関係合同による「新春の宴」も開催され、活発な活動が展開できました。



しまくとぅば発表



歌碑めぐり(手水の縁ゆかりの地)



子ども芸能公演 2歳児も舞台体験

与那原町文化協会

会長 根川 清義 / 事務局長 桑江 裕子

6月27日(木) 与那原町コミュニティセンターにて令和元年度定期総会が開催されました。10月19日(土)・20日(日)の2日間にわたり文化祭の作品展が開催され沢山の素晴らしい作品が展示されました。また、10月27日には文化祭の舞台発表が開催され、琉球舞踊や郷土民謡などの舞台がにぎやかに行われ、多くの観客を魅了しました。1月1日元旦には東浜にて「歌い初め、舞初め」が朝6時から120名もの観客を集めて開催されました。今年度の役員体制は、会長：根川清義、副会長：外間喜啓、上地政春、事務局長：桑江裕子、会計：安泉直子、監事：喜屋武一正、知念幸盛、会員数は220名です。



南風原町文化協会

会長 與那嶺 芳夫 / 事務局長 神谷 敏充

南風原町文化協会は、令和2年9月で創立20周年を迎えます。設立からの理念である「小さな輪を大きな輪に」を踏まえ、当協会の諸事業を通して地域文化を掘り起こし、若者に文化の大切さを伝える事ができればと思ひ、歴代役員が築いてきたこの協会を、先人の知恵を頂きながら、役員及び各専門部会の先生方と共に、益々発展させるべく頑張っていく決意を新たにしています。

令和元年度の事業は、町民の皆さんの参加も例年以上に多く、町文化振興に対する認識と我が文化協会に対する町民の期待の高まりを感じています。

令和2年度は、20周年ということで、歴代役員を一堂に集めて協力を仰ぐ機会を設け、また他の文化協会との連携と交流を深めて、町の協力も仰ぎながら郷土文化の継承と町民の文化の創造に努めていきたいと考えております。



糸満市文化協会

会長 仲宗根 巴津美 / 事務局長 仲宗根 玲子

糸満市文化協会では、今年度組踊300周年という事もあり、組踊事業に力を入れました。2月15日(土)には、乙女椿会館にて南山組踊保存会事務局長・ラジオ沖縄方言ニュースキャスターの上地和夫さんを講師に、「はじめて知る組踊の世界」と題して講演会を開催しました。組踊「月の豊多」の一場面を見て頂き、組踊の歴史や小道具、所作についてお話を頂きました。

また、2月23日(日)には組踊「月の豊多」を上演するため、4ヶ月間取り組んできましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止となってしまいました。今回の上演は19年ぶりの本格的な上演となるはずでしたが大変残念です。

糸満市伝統文化継承事業
組踊「月の豊多」

第一部 琉球舞踊
かたみどり
白浜節
セイヤ
鳩間節
日金踊り

第二部 組踊「月の豊多」

令和2年 2月23日(日)
14時開演 (13時半開場)

入場料 500円
入場券券別加増 2月21日まで
組踊「月の豊多」

場所 / 糸満市農村環境改善センター 大ホール【糸満市宇指屋 1221-1】

主催 / 糸満市文化協会、糸満市山形地区振興会、糸満市山形地区振興会、糸満市山形地区振興会、糸満市山形地区振興会、糸満市山形地区振興会
後援 / 糸満市文化協会、糸満市山形地区振興会、糸満市山形地区振興会、糸満市山形地区振興会、糸満市山形地区振興会
お問い合わせ / 実行委員会事務局 (糸満市山形地区振興会 生活学習課内) 2388-840-0183



久米島町文化協会

会長 島袋 完英 / 事務局長 村田 香織

毎年9月第3土曜日に開催している「久米島古典民謡大会」が、今年で10回目を迎え盛大に開かれました。審査員長には発起人であり今年人間国宝に認定された中村一雄氏、特別審査員およびスペシャルゲストとして元THE BOOMボーカルの宮沢和史氏もご参加下さり、記念大会に相応しい顔ぶれとなりました。また少子化が叫ばれている中、フラダンスや民謡、空手古武道では子どもたちの可愛い演舞（演武）があふれ、レク愛好会、社交ダンス、舞踊、三線、箏曲のベテラン勢も抜群の安定感で各行事を運営・参加しています。民俗芸能も他団体と協力しながら活動しており、高齢化や少子化による部会存続の難しさは喫緊の課題ですが、統合と簡略化、各行事の魅力をアップさせることに注力し全員が楽しんで続けていけたら良いと思います。



一般社団法人宮古島市文化協会

会長 大城 裕子 / 事務局長 松谷 初美

本協会は2018年度に法人化し、一般社団法人として新たにスタートいたしました。今年度（2020年度）3年目となります。個人会員と団体会員（16部会）、約1280人が所属し、市民総合文化祭（展示発表・音楽祭・こどもシアター・芸能祭・芸術劇場等）や宮古島文学賞、鳴りとぅゆんみゃ〜く方言大会等を開催しています。

また、年間をとおして、本協会に加盟する53団体の活動支援や方言講座の開催、地域の文化事業の支援等を行っています。

旧平良市時代から継続開催している市民総合文化祭（通算45回）は、2018年度から「JTAドーム宮古島」で開催しており、昨年度の来場者は約7700人でした。ワークショップやフードコーナーも設けた「文化のお祭り」、訪れた多くの市民に文化芸術の秋を五感で楽しんでいただきました。

「島」をテーマに全国から短編小説を募集している「宮古島文学賞」は、今年度4回目となります。宮古島独自の文学賞を目指して取り組んでいます。

第2回「宮古島文学賞」授賞式・祝賀会

主催：（一社）宮古島市文化協会



石垣市文化協会

会長 江川 義久 / 事務局長 玻名城 安教

当協会には25部会がありますが、今年度はすまむに（島くとうば）関係の活動が特筆されます。すまむに部会においては「八重山（やいま）ぬむかすむにかるた」作成・発行しました。“昔の人々の生きる知恵がつまった昔むに（ことわざ）を題材に百人一首の形式で作成しました。生活の知恵や工夫が、含蓄のある「むかすむに」の中に輝いています。家族で楽しんで、遊びながら学んでいただきたい”、とその制作意図を発刊にあたって述べています。当協会の、石垣市の大きな知的財産として今後その活用を図っていきたくと考えています。協会・部会主催で毎年開催されています。

「すまむに大会」に小学生、与那国町、竹富町の参加があり、盛況でした。これまで本島での大会には一人だけ出場していましたが、県協会、島くとうば普及センターのご高配をいただき、3市町から3人参加できたことを深く感謝申し上げます。



北部連合文化協会

会長 仲本 義朗 / 事務局長 嘉陽 健

北部連合文化協会は、早くも設立から5年が経ちましたが、北部地区の文化協会が連携を取りながら、活動をしています。8月にはしまくとぅば普及センターの「しまくとぅば語やびら北部地区大会」を、北部地区の市町村文化協会が協力し合い名護市中央公民館で開催しました。また、12月には名護市文化協会の文化祭に北部連合の会員の招待作品が展示されました。

12月に伊江村文化協会が設立されたので、新しい会員として参加する予定であり、北部地域の文化活動がますます活性化することが期待されています。



中部連合文化協会

会長 喜屋武 馨 / 事務局長 大屋 みゆき

中部連合文化協会は、中部十市町村文化協会にて構成されています。会長は輪番制となっており、2018・2019年度は北中城村文化協会会長喜屋武馨が会長を務めました。

中部連合文化協会の事業として、これまでは講演会、芸能祭などが主でしたが、理事会で協議を重ねた末、「中部連合文化協会新春大交流会」を開催する運びとなりました。

2020年1月23日に北中城村立中央公民館ホールにおいて、148人が一堂に会し大交流会は盛会裏に終わることが出来ました。ご多忙の中、仲田美加子会長、玉城事務局長には遠くからご参加頂きありがとうございました。

2020年度はうるま市文化協会山城正俊が会長となります。



沖縄市文化協会 安慶名一郎氏による乾杯の温度



集合写真

南部連合文化協会

会長 松田 竹雄 / 事務局長 平良 友子

沖縄県南部連合文化協会は、今年25周年を迎える。節目の年にあたりこの間の主な事業を記しておきたい。

＊芸能公演 創立翌年に第1回南部芸能祭を開催(3回)、琉球古典音楽二揚選奨(6回)、競演の島うた大会(7回)、南部民俗芸能交流フェスティバル、中国古箏奏者「伍芳の世界」

＊国外文化交流8回(中国・台湾・ベトナム)

＊文化シンポジウム「南部にレールの夢のせて」、「南部の未来は次世代型路面電車(LRT)」

＊文化講演会「南部地域の文化の特質」「おいしく食べて健康長寿」

＊県外公演3回

＊文芸誌「なんぶ文藝」(4号)、会報「なんぶ文化」(30号)

＊2001年に南部文化賞を設定し、これまで32人の方々を顕彰している。2019年度は創立二十五周年記念「新春歌謡フェスティバル」、小中校生を対象に「わくわく俳句教室」、会員親睦の「パークゴルフ大会」を開催した。



創立25周年記念 新春歌謡フェスティバル
2020年1月13日

自主事業 第25回しまくとぅば語やびら大会

令和元年9月14日(土)うるま市民芸術劇場響ホールで第1部は沖縄県主催のしまくとぅば県民大会、第2部は沖縄県文化協会主催の第25回しまくとぅば語やびら大会が開催されました。

沖縄本島からは8月に北部・中部・南部の各地区で開催された地区大会から、14組15名の出場者に合

せて、宮古島市・石垣市・竹富町・与那国町から4名の出場がありました。初めに最高齢の與古田八重子さんと、最年少の島田泰健くんの二人による、「しまくとぅばふいるみーるたみ ちばてい いちゃびーん」という開会宣言があり、出場者それぞれが、家族のお話や故郷への思いなど、それぞれの地域の言葉で話しました。



演 題	氏 名	
ウチナーグチ継承のために	津嘉山 朝政	宜野座村文化協会推薦
我が人生	與古田 八重子	うるま市文化協会推薦
イミンミーター太平山ピラミッド	天久 富雄	(一社)宮古島市文化協会推薦
空手ならてい 心 高みらな	久場 晃寿	恩納村立山田中学校3年
いっぺえー がんじゅう おばあー	城間 一華	豊見城市立伊良波小学校6年
願えーる幸い	兼城 果林	北谷町立北谷第二小学校6年
むーるし どうなんむぬい あたらきんだんぎ!	村松 稔	与那国町教育委員会推薦
わーうっぷー	仲程 心美	本部町立本部小学校4年
程順則(名護親方)とう六ちぬ諭示ぐとう	宮里優・當眞らん	浦添市立仲西小学校5年
うみぬイユしんか	親川 秀光	南城市文化協会推薦
ホームぬファーと言われた日	大島 千佳	石垣市立大浜小学校5年
がちまやーん 良いむんやっさー	中川 信子	那覇市文化協会推薦
あきらめない心	島田 泰健	南城市立知念小学校2年
島言葉(むに)忘(ば)しきりや島(しま)忘(ば)しきる	石垣 金星	竹富町教育委員会推薦
わんねえー与那原っ子	桑江 紀花	与那原町立与那原東小学校6年
音楽の大事さ	仲村渠 妃乃	嘉手納町立嘉手納中学校3年
我、お父ぬ事	親泊 花南	沖縄市立安慶田小学校5年
親ぬ言しぐとうや肝にすみてい	渡具知 勝美	嘉手納町文化協会推薦

自主事業 令和元年度 沖縄県文化協会賞 授賞式

令和元年12月1日(日)14時より豊見城市中央公民館大ホールで開催されました。仲田会長から受賞者の皆様のご尽力に感謝申し上げるとともに、これまで以上に相互の交流連携を密にし、各地域の文化の発展は勿論のこと、沖縄県全体の文化活動の一層の発展に寄与するべく精一杯努めていきたいと、挨拶があった。今年度は、功労賞31名、奨励賞29名、団体賞22団体が受賞しました。表彰に続いて来賓祝辞では、県知事玉城デニー様のご名代で、文化観光スポーツ部統括監の山城貴子様、豊見城市長の山川仁様にご挨拶をいただきました。豊見城市文化協会の歓迎のアトラクションは、吹奏楽部の心和む演奏、9月のしまくとぅば語やびら大会に出場した城間一華さんの「いっぺー がんじゅー おぼー」のお話、剛柔流琉翔会伊佐空手道場の幼稚園生から高校生までの4名の子どもの勇ましい型演舞と、豊見城市文化協会の多彩で、文化の継承が見える舞台でした。



令和元年度「沖縄県文化協会賞」受賞者

推薦	功 労 賞(31名)	奨 励 賞(29名)	団 体 賞(22団体)
国頭村文化協会			奥間民俗芸能保存会
今帰仁村文化協会	金城 勲/古典音楽 三線	与那嶺 百合子/琉球箏曲	アネットフラサークル
本部町文化協会	鳥袋 貞三/文化活動	松本 文/合唱	崎本部みなわ会
名護市文化協会	大城 文子/華道	前田 貞夫/写真	
宜野座村文化協会	仲田 恵美子/書道	金武 秀子/書道	宜野座村文化協会 琉球舞踊部 道扇流・武美の会
金武町文化協会	宜野座 美津子/大正琴・コーラス	新垣 富子/俳句	金武町文化協会 古典芸能部会 玉城流 琉花の会
恩納村文化協会	糸数 正男/古典音楽 三線	月津 千恵子/文芸	谷茶ウステーク保存会
うるま市文化協会	兼島 順子/琉球舞踊・太鼓	外富 光子/琉球箏曲	うるま市文化協会 茶道部
	平良 光信/琉球民謡	佐久田 朝枝/琉球舞踊	
沖縄市文化協会	桑江 良哲/書道	玉城 恵子/琉球舞踊	
	渡嘉敷 栄子/琉球舞踊	比嘉 盛昭/写真	
読谷村文化協会	宮里 春子/琉球舞踊	大城 功/空手・古武道	大添伝統芸能保存会
嘉手納町文化協会	西平 清子/茶道	藤山 翔梧/日本舞踊	比謝川混声合唱団ラベンダー
北谷町文化協会	星川 初見/書道	岡場 静子/華道	北谷町文化協会 押花部
北中城村文化協会	奥間 百合子/写真	徳山 直美/しまくとぅば	北中城村文化協会 大正琴部
中城村文化協会	比嘉 勇/古典音楽 三線	比嘉 ミツエ/琉球舞踊	新垣稲しり節保存会
宜野湾市文化協会	上間 祐富/古典音楽 三線	比嘉 政子/琉球舞踊	大山区自治会
	吉原 裕子/琉球箏曲	金城 てるみ/茶道	
浦添市文化協会	手登根 廣美/琉球箏曲	神田 采愛子/琉球舞踊	浦添市てだこ学園大学院
	大城 稔/書道	富村 用助/書道	
西原町文化協会	仲田 タカ/コーラス	與那嶺 正則/空手・古武道	西原町文化協会 古典音楽部会
那覇市文化協会	宮里 剣山/邦楽 尺八	川井 民枝/八重山舞踊	那覇市文化協会 うちなーぐち部会
	糸数 ひとみ/洋楽	赤嶺 啓子/沖縄芝居・琉球舞踊	
豊見城市文化協会	玉那覇 昭二/古典音楽 三線	上原 妙子/琉球箏曲	
八重瀬町文化協会	新里 清文/古典音楽 三線	上地 富雄/書道	八重瀬町文化協会 民謡部会 知念初美 民謡教室
南城市文化協会	西川 帆鈴/日本舞踊	鳥袋 健/琉球民謡	知名ヌーパレー保存会
与那原町文化協会	与那嶺 豊/古典音楽 三線	城間 勇/古典音楽 三線	与那原町文化協会 茶道部
南風原町文化協会	喜名 正勝/古典音楽 三線	玉城 勝/写真	南風原町 組踊保存会
糸満市文化協会	古波倉 妙/古典音楽 太鼓	宮城 麗仙/書道	
(一社)宮古島市文化協会	佐渡山 政子/文芸	與那城 美和/古典音楽 三線・宮古民謡	宮古民謡保存協会
	仲地 清成/文芸・写真		
石垣市文化協会	石垣 佳彦/写真		石垣市文化協会 古謡部会

令和元年度 沖縄県文化協会賞 授賞式



自主事業 第3回 U18島唄者コンテスト

3回目の今回は、令和元年12月26日に浦添市てだこホール市民交流室にて予選を開催し、応募者25組の中から16組が選ばれました。令和2年2月15日（土）には、国立劇場おきなわ小劇場で本選が開催されました。

このコンテストでは、唄う前に自己紹介や曲の紹介を1分以内で、しまくとぅばで話してから唄います。それぞれが自己紹介や島唄へ思いなどを話した後に唄いました。審査を待つ間には、9月のしまくとぅば語やびら大会に出場した方の中から、久場晃寿さん、城間一華さん、島田泰健さん3名のしまくとぅばのお話がありました。出場者の中から厳正な審査の結果、最優秀賞は小池美寿々さん、優秀賞は安次富昌吾さん、奨励賞は安慶名優和さん3名が選ばれました。

演 題	氏名	
安慶名 優和	15歳	うるま市立与勝中学校 廃藩ぬ武士
安次富 昌吾	18歳	沖縄国際大学 赤犬子
伊江 里菜子	13歳	那覇市立首里中学校 初春ぬ踊い フェーシ:具志堅 梓 12歳、伊江 祐里菜 10歳
兼城 琉唯	14歳	糸満市立西崎中学校 汗水節
金城 奈緒	14歳	南城市立佐敷中学校 乙女百合ぬ花
蔵根 幸也	17歳	沖縄県立美里高校 黄金船
小池 美寿々	10歳	石垣市立登野城小学校 あがろーざ節
砂川 奈々夏	14歳	宮古島市立鏡原中学校 なりやまあやぐ
友利 涼	11歳	宮古島市立平良第一小学校 伊良部とうがに
外間 梨紗	16歳	沖縄県立向陽高校 丘の一本松
松川 裕梨	16歳	沖縄県立宮古高校 與那武岳金兄小
柳澤 一華	15歳	石垣市立伊原間中学校 安里屋節
山城 光南海	14歳	糸満市立糸満中学校 遊びシヨンガナー
山田 健太	14歳	石垣市立石垣第二中学校 あがろーざ節
与儀 杏珠	12歳	宮古島市平良第一小学校 内根間ぬかながま 座敷用
世持 沙菜	9歳	石垣市立白保小学校 でんさ節

(50音順)

司 会: 當銘 由亮

審査員: 大工 哲弘(審査員長)・仲里 義光・神谷 幸一・吉田 真和・大城 貴幸



司会は當銘由亮さん



受託事業 地域の文化継承・発信支援事業

第7回 特選 沖縄の伝統芸能

日時：10月12日(土)18時開演

会場：国立劇場おきなわ大劇場

出演：国頭サバクイ(国頭村 奥間区)
宮城ウシデーク(うるま市 宮城島)
伊集の打花鼓(中城村 字伊集)
天人(南城市 字津波古)
獅子舞(石垣市 字川平)



シマdeシンポジウム 津嘉山の芸能×しまくとぅば

日時：8月24日(土)18時開演

会場：南風原町 津嘉山地域振興資料館

出演：津嘉山民俗芸能保存会の皆さん 城間正喜(解説)
パネリスト/大城康彦、金城吉信、神谷守、外間啓子
コーディネーター/神谷武史

上記の他に2月に「シマdeシンポジウム 奥間の芸能×しまくとぅば」、3月に「シマdeシンポジウム 知名の芸能ヌーバレー×しまくとぅば」の準備を進めておりましたが、2月始めからの新型コロナウイルスの感染拡大により2件のシンポジウムが中止になりました。



新春文化講演

日時：1月24日(金)18時開演

会場：沖縄県立博物館講堂

出演：大城肇(元琉球大学学長)



受託事業

しまくとぅば普及センター運営事業

URL : shimakotoba-navi.jp



項目	事業名	事業内容	実績
しまくとぅば普及人材養成講座	市町村団体提案講座	市町村、団体でしまくとぅばの普及継承のための講座を支援	沖縄ハンズオン、うちなあ島んちゅクラブの若い人たちがしまくとぅばを学び表現する講座を開催
	自主講座	普及センターが独自に企画運営する講座 地域文化協会のしまくとぅば部会等と連携した講座	・本部町文化協会（単語帳） ・すまむに伝承会（絵本、すまむに啓発活動） ・絵本等の音声収録（平良真助物語、かにじょうまん、三つの門）
	講師派遣	普及センターの予算で、学校等に講師を派遣する	学校におけるしまくとぅば授業、クラブに講師を派遣、はごろも小、普天間第二小、具志川小、辺士名小、東風平小 みやくふつ研究会、小禄南公民館、宜野湾小
	講師紹介	開催企画、予算等の措置ができる団体に講師を紹介する	教員研修にしまくとぅばの講師を紹介（沖縄県総合研究センター） 学校への紹介（インターナショナルスクール、糸満市教育委員会）
しまくとぅば語やびら地区大会		※八重山地区は、3名（石垣、竹富、与那国）を県大会へ派遣	
	北部地区大会	しまくとぅば語やびら大会沖縄県大会への代表選出	出場9組10名 県代表3組3名選出
	中部地区大会		出場18組23名 県代表6組7名選出
	南部地区大会		出場15組18 県代表6組6名選出
おきなわ文学賞 しまくとぅば文芸部門			
作品	琉歌部門	沖縄県文化振興会が開催している沖縄文学賞と連携して、しまくとぅば文芸部門を創設	琉歌部門52名 235作品
	学校演劇戯曲部門		学校演劇戯曲部門 5名 7作品
上演			学校演劇戯曲上演 安岡中学校（11月9日）
しまくとぅば講師養成講座			
中級	初級の認定を受けた受講生を対象に行う（宜野湾市、沖縄国際大学）		初級の認定を受けた57名のうち50名が受講 聴講生として10名が受講 認定試験受験者が46名、合格者37名 沖縄県知事名で認定証を交付
初級	しまじまの言葉を伝えていくための講師を養成する講座。初級は概論と基礎知識の習得。（名護市名桜大学）		40名の定員に対し68名が申込 認定試験受験者が50名、合格者42名 沖縄県知事名で認定証を交付
しまくとぅば検定			
9級	しまくとぅばの普及をめざして実施する。しまくとぅばに対する知識と理解会話能力の習得と向上に資する。検定を開催するにあたり「しまくとぅば単語帳9級、7・8級中南部言葉編」配布。（宜野湾市沖国大で開催）		受験者 102名 合格者 99名
8級			受験者 145名 合格者 142名
7級			受験者 143名 合格者 142名
出版物			
単語帳（7・8級） 中南部言葉編	小学校低学年（3～6年生）レベル		1000冊印刷 検定受験者へ配布 学校等でのクラブ活動等に配布
しまくとぅば会話集	「語ろう 使おう しまくとぅば」をコンセプトにした会話集		与那国編、糸満編、今帰仁編を作成
Web関係			
委託運営	Webサイトの情報追加とSNSを使用しての広報		SNSの改訂と広報。活動団体の記事追加
自主運営			Web、SNSでの情報発信、絵本・紙芝居・会話集等をWebに掲載。